

弥生3月になりました。

2月は大雪の被害が全国で発生しました。特に関東では、大学入試の日に大雪による交通の途絶が起こり、いくつかの大学では欠席者のために追試を行うという異例の措置がとられることになりました。ネットワークでも大雪によって川口のWSが中止になるなど活動に障害が発生しました。

とはいえ、春の足音はすぐ近くまで聞こえてきています。今月もネットワークの活動を報告するとともに、新しい年度に備えたいと思います。

【1】最新活動報告

2月の活動を報告します。

【2】イベントカレンダー

これからの活動の予定などを紹介します。

【3】授業のヒント

【1】最新活動報告

2月は各地の部会が実施されました。活発に行われたその活動を報告します。

<部会関係>

■札幌部会 (No.9) を開催しました。

日時：2014年2月1日(土) 14時30分～17時00分

場所：キャリアバンクセミナールーム

内容の概略：出席者10名。

1. 野間先生(同志社大学)より、東京部会レポートに基づいて、来年度の夏休み経済教室、年次大の説明や各地の活動報告がありました。
2. 川瀬先生(札幌開成高校)より、札幌旭丘高校教諭時代の「時事問題解説」の報告、非常勤で担当された北教大札幌校の「地理歴史科教育法」集中講義の「教材資料編」の資料についての紹介がありました。また、「教育資料編」の資料についての報告があり、授業づくりや問題作成のヒントとなる資料が提供されました。
3. 兼間先生(札幌市立定山溪中)より、「入試問題を利用した授業」に関して札幌市立平岡中教諭時代の実践について報告と討論が行われました。
4. 山崎先生(北見北斗高)より、北海道高等学校教育研究大会地歴・公民部会発表資料「郡部と都市部の生徒は農業問題をどう見ているか？」に基づいた実践報告と討論が行われました。詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/Sapporo/Sapporo009report.pdf>

■大阪部会 (No. 37)を開催しました。

日時：2014年2月15日(土) 18時00分～20時00分

場所：同志社大学 大阪サテライト

内容の概略：出席者14名。

1. 野間敏克先生(同志社大学)から、東京・札幌の部会やワークショップなどの、最近の活動報告がありました。
2. 山本雅康先生(奈良学園中高校)から、時事問題の教え方についての授業実践が報告されました。生徒に新聞から関心ある記事を選ばせ、それを要約し、意見を考え、1分間でスピーチさせる、聞いている生徒にも感想を書かせる、など、いろいろなステップで様々な言語活動を行わせる仕掛けです。
3. 関連して河原和之先生(立命館大学ほか)からも、「新聞記事から発掘するネタ」として新聞を授業で活用した実践例が報告されました。
4. 河原先生からは、日本経済教育センターで加藤先生(日本大学)とともに開発している「地理と経済の融合教材～BRICs 諸国を中心に～」の一部が、先月に引き続いて紹介されました。

詳細は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/osaka/Osaka37report.pdf>

■東京部会 (No. 65)を開催しました。

日時：2014年2月18日(火) 19時00分～21時15分

場所：日本大学経済学部7号館14階レセプションルーム

内容の概略：出席者12名。

1. 新井から配布された「東京部会レポート」に基づき、篠原先生私案をベースに夏休み経済教室の内容を検討しました。昨年からはじめた「教員とエコノミストでつくる授業」を十分事前の相談をして教材に正しい経済的視点を提供するような時間とすること、東京高校は初任者向けのコマを創設することなどが協議されました。また、3月22日の年次大会の内容が確認されました。
2. 活動報告では、札幌、大阪での部会で配布された資料が紹介されました。
3. 実践報告では、三枝先生(目黒東山中)から、「～「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の概念における体験的な活動の活用～」市営サッカー場の利用方法を決定する授業の目的、プロセスおよび評価の視点が説明されました。また、岩本知之先生(静岡大学附属島田中)による「社会科授業案(公開授業Ⅱ)」(16時間)の紹介がされました。
さらに、新井(小石川中等教育学校)が宮尾先生、升野先生の「繰り返しゲームを使った事例」を発展させて実施した国際理解の授業実践例も紹介されました。
4. 情報提供では、今年1月から始まった「国際収支関連統計の見直し」に関する概略が紹介されました。今後教科書の記述なども変わってゆく可能性がある変化です。

詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/tokyo/tokyo065report.pdf>

■京都部会 (No. 23)を開催しました。

日時：2014年2月21日(金) 19時00分～21時00分

場所：同志社大学 良心館4階第二共同研究室

内容の概略：出席者8名。

1. 篠原代表から、年次大会と「夏休み経済教室」のプログラム原案について説明とが報告されました。
2. 柳史郎先生(安曇川高)から、日本の財政状況を学ばせる教材の紹介がありました。
3. 下村和平先生(山城高)から、教科書や入試問題で取り上げられている寡占化・独占化の單元について、「管理価格」や「価格の下方硬直性」を教えることの無意味さについてのコメントがされました。
4. 川上敏和先生(同志社大学)から、レモンの市場を例に消費者保護の問題を「情報の非対称性」の枠組みの中で説明することによって、「法教育」と「経済教育」の架け橋になるということを示された。
また、逆選択とモラルハザードの具体例についても述べられました。

詳細は以下の HP をご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/meeting/kyoto/kyoto023report.pdf>

<イベント関係>

■ワークショップ【川口】が大雪のため中止になりました。

2014年2月15日(土)に埼玉県川口市立里中学校で予定されていた、ワークショップ川口が大雪による交通混乱のため中止になりました。

<教材提供のお願い>

■ウェブ教材の提示を準備しています。

これまでネットワークの活動のなかで紹介された先生方の授業教材がどこにあるか分かりにくいという声がありました。

ネットワークでは新たに HP に、先生方が使えるような教材をウェブに提示コーナーを準備しています。各地の部会などで紹介いただいた実践事例をネットワーク宛に送ってください。書式などを整理して順次アップしてゆきたいと考えています。

【 2 】 イベントカレンダー

これからの予定を開催順に掲載します。

■年次大会のお知らせ「そうだ、今年も京都に行こう！」

年次大会では、「法教育と経済教育の対話（第三回）」のシンポジウムを行います。

日時：2014年3月22日13：00～17：00

場所：同志社大学寧静館 5階

篠原総一先生（同志社大学）の「法と経済の考え方」の基調提案があります。

それをうけて中川雅之先生（日本大学）がコーディネートするパネルディスカッションが行われます。発言者は、野坂佳生先生（金沢大学）、藤井剛先生（千葉工業高）、兼間昌智先生（札幌市立定山溪中学校）の各先生です。

内容の詳細、出席方法は以下のHPをご覧ください。

<http://www.econ-edu.net/announcement/WS,Sympo/20140322symposiumRvsd.pdf>

■「夏の経済教室」の内容を検討しています。（再掲）

名古屋会場 2014年8月4日（月）中学向け ウィンクあいち

2014年8月5日（火）高校向け ウィンクあいち

大阪会場 2014年8月7日（木）中学向け 国民会館

2014年8月8日（金）高校向け 国民会館

東京会場 2014年8月14日（木）15日（金）高校向け 東証ホール

2014年8月18日（月）19日（火）中学むけ 東証ホール

3会場とも本年と同じ場所です。今年は、新しく教員になった先生や経済のイロハから学びたいという先生方のために、初級の読み解き講座を開講する予定です。また、時事問題とからめて教科書をいかに読み解くのか、入試問題の経済学からの解説なども企画しています。歴史シリーズやエコノミストと授業を作るなどの講座もさらにブラッシュアップしてゆきます。講師内容が確定しましたらウェブ上にアップいたします。

【 3 】授業のヒント

■追試のすすめ

追試は追試験ですが、生徒だとあまり有難くない言葉です。でもここでは追試の意味で使っています。

何を追試するか。それはこれまで報告されてきた各先生方の授業実践です。

授業は個別一回性のものですが、それでもコアとなる理論やねらいは共通するものがあるはず。また、小ネタといわれる導入のネタや、大ネタのテーマ学習などもみんなで共有することはできるはず。

授業の実践報告では、成功した「すばらしい」実践が報告されることが多いの

ですが、本当にそれが可能になるのかは、みんなによってたかってやってみて試してゆくことが必要になります。それがここで言う追試です。

例えば、東京部会では宮尾尊弘先生（国際大学）が大学でのミクロ経済学で実施した「繰り返しゲーム」の実践があります。それがコアとなって、升野伸子先生（筑波大学附属中）の中学校での財政の授業での「ゲーム」の実践が報告されました。これは使えるという内容です。それをうけて新井（小石川中等教育学校）が今度は高等学校1年生の総合学習で、国際理解のテーマで実践するという報告がされています。

コアとなるのはゲーム理論です。ミクロ経済学ではゲーム理論で市場のメカニズムを発見させてゆこうとします。中学高校では、ゲーム理論そのものを教えるというより道具として使ってゆこうとします。まさに中高大が連携して追試を行っています。

河原先生（立命館大学ほか）らのネタ研での実践報告もこんなかたちでみんな追試をして使える教材として蓄積されていると思います。

カール・ポパーは理論が科学であるのは反証可能性があるかどうかであるとしましたが、授業実践が本当に意味があるかは追試で検証してはじめて成り立つのかもしれない。（新井）

【 4 】編集後記（みみずのたはこと）

3月は総括の季節です。ネットワークのメルマガなど広報関係のお手伝いはじめて三年近くになりますが、やり残しが多いことに反省をしています。メルマガは毎月発行できていますが、ニュースレターは途中で止まってしまっています。ネットワークの年次は3月締めではありませんが、どこかできちんと総括して積み残しが無いようにしたいと思っています。（新井）

=====
登録に心当たりのない方、今後配信を希望されない方は下記会員ページよりお手続き下さい。

<http://www.econ-edu.net/aboutus/contact.html>

=====



編集・発行 : 経済教育ネットワーク

(C) Network for Economic Education ◆◇